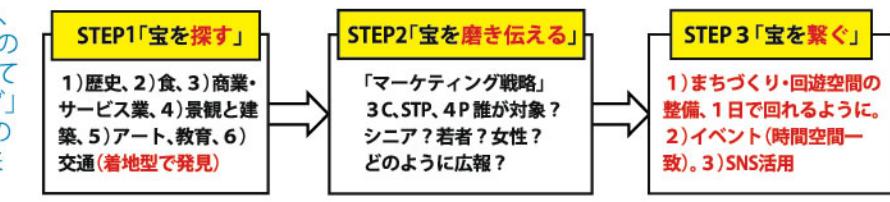


★地域資源発掘法(小長谷)

(1)観光学の長年の疑問は有名資源のない地域はどうするのか?ということである。すべてのまちに富士や大仏など有名な資源があるわけではない。(2)しかし、最近は観光の考え方が多様化し、また、ニューツーリズムとよばれる個人の趣味の観光が重要になっているので、どのようなまちでも、観光資源を発掘し磨いてプロモーションし、観光都市になるようになっている。富士や大仏がなくても観光都市になれるのである(『地域創造のための観光マネジメント講座』(学芸出版)などで紹介されている考え方)。(2)今回は、地域実践演習として、まず宝を発掘することになった。そして、大阪市大の学生のみさんが自主的に作業したところ、自然に、歴史、食、商業・サービス業、景観・建築、アート・教育、交通などのジャンルが出てきた。(3)今後の研究や政策の課題としてはこれらを磨き上げ、伝える第2段階の「マーケティング」がある。(4)さらにより進んだ第3段階「まちづくり」の段階では、宝同士をつなぐ「回遊」や「イベント」、宝と来訪者をつなぐ「SNS」活用などが課題となる。



(教育・アート)「オールオリジナルは贅沢」石炭倉庫まるさん(廣川津喜子)

あんがいおまる一座。この名前からもユーモアあふれる劇団をご存じだろうか。立ち上げたのはまるさんである。元々まるさんは本町で出版業をスタートさせ、音楽と文章での発信に力を注いでいた。そして若い演者が安価で使える劇場を追いかけていた結果、**井天町の17「石炭倉庫」**にたどり着いたそうだ。石炭倉庫は階段が広く、丸い柱で、音響もよい建物だった。最初は出版業のかたわら、音楽イベントを行う若者に安価で劇場を貸していた。その後、「発信は文章や音楽だけではない、伝えたいことを伝えればよい、つまりそれは舞台ではないか」と気付いたまるさんは劇団を立ち上げた。それがあんがいおまる一座である。演目はすべてオリジナルという贅沢さ。現在は石炭倉庫で月ごとに新作公演を行っている。一座の情熱が今の時代に訴えかける舞台にぜひ一度、足を運んでみてはどうだろうか。



(教育・アート)「聴く人の心に響く音楽を!」

市岡高校吹奏楽部(廣川津喜子)

18「市岡高校吹奏楽部」は今年創部56年目で、大阪府吹奏楽コンクール17年連続金賞という大阪では名だたる公立強豪校。担当は田辺先生で、所属人数は100人を超えており、練習は週1回の休みを除き、ほぼ毎日行われている。1997年からは楽器屋さんの紹介により大阪交響楽団・テューバ奏者である潮見裕章氏を指導者に迎えている。潮見氏はフレーズに歌詞をつける、何かにたどり出るなど独創的かつ生徒に分かりやすく指導してくださっているそうだ。この練習と指導のバランスが強さの秘密なのではないだろうか。また、地域での演奏活動にも力を入れている。毎年、天保山まつりへの参加や八幡屋商店街での演奏などに出演している。普段のホールでは味わえない、地元の人や通りすがりの観客との距離感に学生たちは刺激を受けている。高校生という若い力からエネルギーに発信される音楽に一度耳を傾けてみてほしい。



(交通手段) 観光のカギは自転車にあり!?シェアサイクルでまわる大正(松井歩実)

大正区民の足としてお馴染みの自転車が、いま観光資源として注目されています。健康新しい環境にやさしいだけでなく、自転車は南北に長い大正区を、島の風を感じながら巡るのにぴったりです。2015年8月、OpenStreet株式会社は大阪ペイタワーと伊藤忠アーバンコミュニティの協力のもと、大阪ペイエリアでシェアサイクル事業 HELLO CYCLINGを展開すると発表しました。HELLO CYCLINGは、ホテルやコンビニエンスストアなど身近な駐車場に自転車ステーションを設置し、ステーションであればどこへでも自転車を返却することができる特徴です。ステーションの検索から自転車の利用予約、決済までの一連の手続きをスマートフォンやPCを利用して行うことができ、東京都を中心とした全国に広がっています。大正区で現在、19「セブンイレブン大阪三軒家東4丁目店」と20「セブンイレブン大阪南思加島1丁目店」の二か所に設置されている自転車ステーションは今後さらに拡大される予定です。シェアサイクルが、大正区のさまざまな魅力に触れる移動手段として活躍することに期待が高まります。



★指導教員より

はじめまして。大阪市立大学のCR副専攻で、TA(教育助手)をつとめさせていただいている松本英之(小長谷研究室)です。今春、私が初めて担当した第1期生が卒業しました。あつという間の4年間で、彼らと共に築港・天保山の地域の研究に取り組んだのが昨日のことのようです。学生は「まち」にフィールドワークに入り、地域の方々と触れ合って、現実を知り、人間として成長します。地域の方々は、学生の真っ直ぐな眼差しや時には突拍子もない質問に真摯に対応して下さり、笑顔で自分の「まち」を語られます。「まち」が実学の場となる瞬間です。学生の提案したことが「まち」にぎわいとなり、シェアサイクルの導入にも繋がっています。

2018年度より、第2期の新入生が入学し、港区(市岡、朝潮橋エリア)と大正区のフィールドワークに入り、「まち」を研究しています。地域の方々と触れ合うことで学生達は成長し、「まち」を訪れることで笑顔が広がればと考えています。是非、学生達をご指導下さい!



編集後記: 第5号はCR副専攻第2期生による地域資源発掘調査の成果などを報告しました。

★本タイマスのパックナンバーは、(一社)ホームページ <http://minatomachi-o.jp/>をご覧ください。



港まちづくりタイムズ第5号 発行者: 港区産官学連携会議「港区CRテーブル(港区、(一社)港まちづくり協議会大阪、大阪市立大学都市経営研究科小長谷研究室)」、大正区産官学連携会議「大正区CRテーブル(大正区、(一社)港まちづくり協議会大阪、大阪市立大学都市経営研究科小長谷研究室)」
発行日: 2019年2月25日、編集事務局: (一社)港まちづくり協議会大阪(代表理事: 重山英樹)。

港

まちづくり タイムズ 第5号



発行者: 港区産官学連携会議「港区CRテーブル(港区、(一社)港まちづくり協議会大阪、大阪市立大学都市経営研究科小長谷研究室)」
大正区産官学連携会議「大正区CRテーブル(大正区、(一社)港まちづくり協議会大阪、大阪市立大学都市経営研究科小長谷研究室)」
発行日: 2019年2月25日 編集事務局: (一社)港まちづくり協議会大阪(大阪市港区築港3-7-15 港振興ビル206A 06-6572-0017)

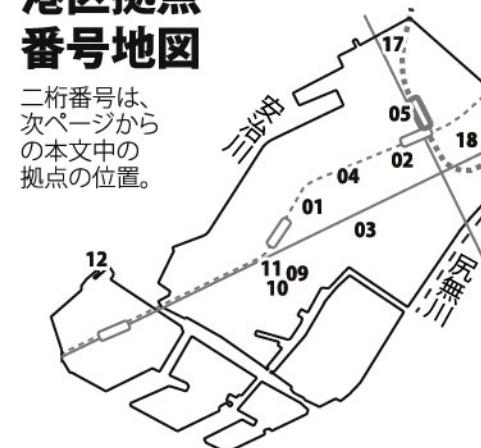
元気な港区を
もりあげます!



筋
港区
長
原
章
博

港区拠点 番号地図

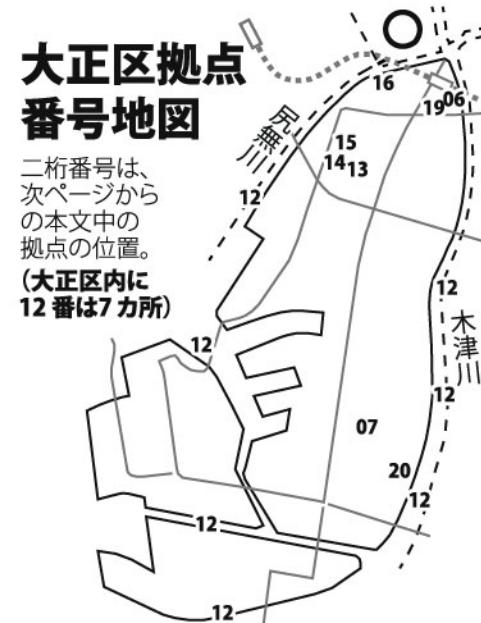
二桁番号は、
次ページから
の本文中の
拠点の位置。



港区では公民連携によるまちづくりを進めており、特に築港・天保山エリアでは、にぎわいまちづくり実行委員会を母体として、産官学連携による取り組みを行っています。回遊性の向上を目指し、大阪市立大学小長谷研究室の実践演習でのモビリティ実験の成果を活用し、2019年3月からはシェアサイクルの実証実験を開始しました。「学のアイデア」を「産の実装」で実現するため「必要な環境を官が整える。この連携がガッチリ噛み合うことまちが変わり始めます。その最大のエネルギーは学生の皆さん的好奇心と発想力と熱意。CR副専攻で対話した市大生の皆さんに大きなパワーと可能性を感じました。これからも一緒に港区のまちを面白くしていきましょう!」

大正区拠点 番号地図

二桁番号は、
次ページから
の本文中の
拠点の位置。
(大正区内に
12番は7カ所)



「産官学連携会議」という場で大阪市立大学の学生と議論しました。テーマは「地域活性化」。学生それぞれの研究やフィールドワークに基づく思いのこもった意見をいただきました。「産官学連携会議」という場で大阪市立大学の学生と議論しました。テーマは「地域活性化」。学生それぞれの研究やフィールドワークに基づく思いのこもった意見をいただきました。区長就任以来もっと大切にしているのは会議の「Innovation」。住民意見の「言いつぱなし」「聞きつけない」にならないよう、議事録を何度も読み返して回答漏れがないか、今後の方針を具体的に答えてもらおう。議事録を何度も読み返して引き続き、大学生のみなさんとは、大正区に降り立つてくださった「天使」と思い、議論させていただきます。向かい合い、お答を示し、対応策を決めていきます。来られ、大学生諸君! 一緒に、大正のまちづくりを進めていきましょう!~



大
正
区
長
吉
田
康
人

大正区に大学生の
「天使」が舞い降りる



二〇一九年一月一八日一四時から、港区役所にて、産官学連携会議「港区CRテーブル」を開催。学生と区長の活発な議論が行われました。

港区地域資源発掘！

(歴史) 港区神社紹介、溢れる数字「三」の謎 (田原よし乃)

01「三津神社」は夕凪にある神社です。3つの神社を合祀してつくられました。かつて石田、八幡屋、産土にあったそれぞれの神社は順に天照大神、住吉大神、大海大神をお祀りしており、農村である石田・産土と漁師町でもあった八幡屋、両方の性質を併せ持つ特徴的な由緒となっています。新田開発で生まれた港区の歴史がはっきりとわかりますね！

02「三社神社」は磯路にある神社です。こちらも元は3つの神社でした。御神は天照大神、豊受大神、住吉大神の三神をふくむ六座をお祀りしています。伊勢桑名の出身である市岡與左衛門宗勝が出身地の天照大神とこの地の氏神である住吉大神と共に祀ったといわれており、同じ御祭神でも三津神社とは由来が違う点が興味深いところです。

(**三の秘密**) ところで上記の神社、それぞれ当初の三柱のように農の神様、海の神様など多くの御祭神があり、それが数字の「三」につながる由来のものですが、これまで共に三度の移転を経験しているなど共通点も多くあります。そして港区には他にも

03「三先天満宮」というこれまた「三」の名を持つ神社もあり、港区は不思議な「三」の溢れる地域となっているのです。ご祝儀や三大〇〇など日常でもよく目にする数字「三」。港区の「三」の謎も、日本の伝統文化と深く関わっているのかもしれません…。



(歴史) 地上の楽園・市岡パラダイスの栄光

(田原よし乃)

04「市岡パラダイス」をご存知ですか？戦前、現在の湊ドライビングスクール付近につくられた一大テーマパークです。千人風呂やアシカの泳ぐプール、飛行塔などを備えた、かつての宝塚ファミリーランドに匹敵する大人気施設でした。1934(昭和9)年の第一室戸台風で大きな被害を受け惜しくも閉園となりましたが、港区がいかに賑わっていたかがよくわかります。そしてなんと、この2月に、**05「大阪ベイタワー」**に同じようなスパ機能のある「ソラニワSPA 弁天」がオープンした。露天風呂や岩盤浴だけでなく食事や買い物も楽しめるこの施設、さながら市岡パラダイスの再来として、港区の新たな人気スポットとなることでしょう！

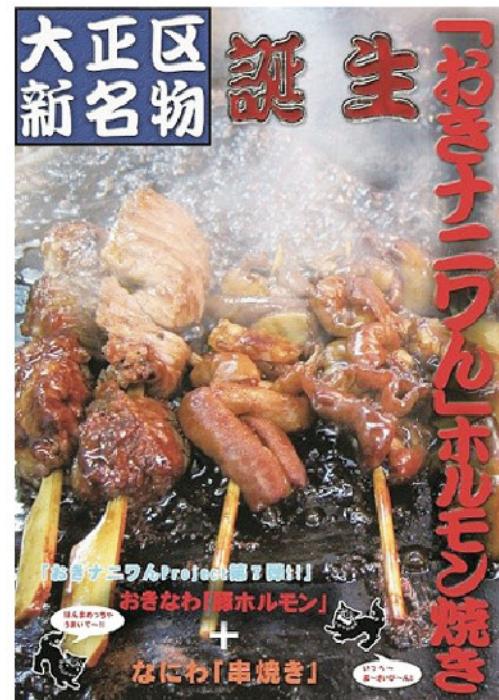


大正区地域資源発掘！

2012(平成24)年、沖縄本土復帰40周年、大正区制80周年に加えて、NHK連続テレビ小説「純と愛」の舞台地として大正区が選ばれた。これを記念として、沖縄と大阪(ナニワ)をかけ合わせた「おきナニワん」をテーマにさまざまな活動が行われている。

(食文化) 「沖縄×ナニワのソウルフード、おきナニワんフード」(松枝蒼弥)

大正区で「おきナニワん」がテーマとして掲げられた2012年から、沖縄と大阪を融合させた新感覚フードの「おきナニワんフード」の展開がスタートした。おきナニワんフードが食べられるお店として、大正区には**06「三軒家駅前エリア」「いちやりば」「大正庵」「新大正庵」**、**07「平尾エリア」「みるく」「宮城ホルモン店」**など10店舗以上のお店がある。うどんや焼きそば、たこ焼きといったものからアイスクリーム・パウムクーヘンまでそのメニューの幅は広くどれもオリジナリティーのあるものばかりだ。中でも私が薦めたいのは「おきナニワんホルモン焼き」(宮城ホルモン店)だ。これは沖縄の「豚ホルモン」となにわの「串焼き」を掛け合わせたもので、なんといっても魅力的なのがその価格だ。ホルモン、レバー、アブラミはどれも一本なんと60円。ハラミでも110円だ。大正区を訪れたときにふらっと立ち寄ってみるのはいかがだろうか。このおきナニワんフードについても私は、おきナニワんフードをそれ単体として売り出すではなく、飲食チェーンの地域特別メニューとして売り出すというアイデアを提案したい。こうすれば、いつもよく行く飲食店でお客さんに「面白い」と目をつけてもらい、より多くの人々におきナニワんフードを食べもらえると思う。



(花) 「大正の町に沖縄の花を」(松枝蒼弥)

私は、大正区で沖縄の花を咲かせて、「リトル沖縄」をよりアピールしていく取り組を提案したい。沖縄の花というのはブーゲンビレアやデイゴの花、ハイビスカスの花など沖縄特有のものだ。沖縄の華やかな花々を例えれば**08「大正リバーピレッジ」**や渡し船の発着場に植えれば、よりおきナニワんをアピールしてその景観をよりよいものにしていけると思う。また、2006(平成18)年から始まった「種から育てる地域の花づくり事業」というボランティア活動と沖縄の花を組み合わせるというのも良いのではないかと思う。

(商業・サービス業) Chao (田中真帆)

皆さん、八幡屋商店街の裏の隠れ家の本格イタリアンレストラン**09「チャオ」**をご存知ですか？イタリア語で「やあ、またね」といった意味がある「チャオ」。店主のお客さんとのまたねと言いたい関係を作っていてほしいという思いがある。メニューには、みなともんに認定された料理もあり、材料も和歌山の農家さんから直接仕入れている。食器にもこだわりがあり、イタリアの食器をつかわせて細部に渡ってこだわった。葉巻を取り扱っている。最後の一服も食事の一環と考えている。お客様の葉巻も管理しており、温度管理が難しいが熟成すると味や香りが異なってくる。店主の山崎さんは昔からピザが好きでピザ職人になったのではなく、昔はデリバリーのピザしか食べたことがなかったがプロとして修行をしてピザ職人になった方でとても気さくな方なので気軽にお話をみて下さい。大人の隠れ家で、ゆったりとした時の流れをお過ごしください。営業時間11:30~14:30と18:00~23:00 定休日 月曜日 インスタグラムとFacebookも。



(商業・サービス業) ヴィント・ミューレ (田中真帆)

創業から22年、ヨーロッパの街角のパン屋さんのような素敵なお観の**10「ヴィント・ミューレ」**。いつもたくさんのお客さんでぎわう、とびきり美味しく地元の方から愛されているパン屋さんです。とびきり美味しい味の秘訣は、フランスから仕入れている塩と国産塩と瀬戸内の花藻塩。特に瀬戸内の塩は平金で煮詰めた海藻から取り出し海藻のうまみがたっぷり詰まっています。“安心と安全を食卓に”を売りにしているので材料も添加物が少ない体に良いものを使用している。運動や仕事終わりの自分へのご褒美としてもよし。お昼のお茶会に持っていくもよし。また、朝御飯に食べるのもよし。一日が幸せな朝から始まるだろう。



(商業・サービス業) 八幡屋商店街 (田中真帆)

11「八幡屋商店街」は地下鉄の朝潮橋駅から徒歩約5分の距離にある、大阪の昔の下町を思い出させる生活空間が広がっている。商店街近くの池島(団地が多い地区)では50%がお年寄りで高齢者が多いためにそれに合わせて商店街のお店も動いている。筆者自身、平日と休日のお昼に2度訪れたがお昼は実際に営業しているお店が少ないので感じられた。また、あいているお店も高齢者向けの衣類販売店や薬局が多いといった印象を受けた。ところで、アーケードがとても立派だ。このような広場型アーケードのある街はそれがきっかけで活性化しているところはある。一方でアーケードが多額の維持費がかかるために今や撤去をしている商店街は全国各地でたくさんある。なんとか活性化の工夫をすることが大事では。そうしないと、ほかの商店街と同じ方向に八幡屋商店街のシンボル的存在であるアーケードもなくなる可能性もある。以前のような若者から大人までの人があふれた八幡屋商店街をもう一度見たいものだ。Twitter @YahatayaSS

(渡し船・建築) 水上道路！？渡し船 (田村明日香)

水都大阪ともいいうように、大阪にはたくさんの川がある。その中でも大正区は川が多い。そして、大正区は自転車の利用が盛んである。また大正区には、大きな船が下を通れるほど高い橋がある。さらに、それを超えなくて川を渡れるのが**12「渡し船」**の役割だ。渡し船は全8カ所あり、午前6時から午後9時まで運航している。10分から20分間隔、朝の通勤通学時間は本数を増やして運航している(運航時間、間隔は渡船場により異なる)。対岸に渡るためにかかる時間は1分～5分程度で、自転車や歩行者にとっては大きな橋を渡るのに比較するととても便利だ。そして、渡し船の2017(平成29)年の利用者数はなんと約174万人!地元の利用者に話を伺うと、主に自転車での利用が多く、通勤通学などの移動の手段として生活に欠かせないものになっているそうだ。また、渡し船から見られる川の堤防や工場地帯の景色は他の地域では見ることのできないとても珍しい光景だ。皆さん一度、渡し船に乗ってみると新鮮な景色を見ることができるだろう。



(渡し船・建築) 写真映え！昭和レトロな大正アート (田村明日香)

13「泉尾神社」の近くに人魚棟、大正メイキンというアートギャラリーがある。**14「人魚棟」**はアーティストの神吉奈桜さんがもともとその家に住んで活動していた。しかし、その家はあはら家でやや老朽化していたので、Facebookで「ヘルプミー」と投稿したところ、いろいろな方の応援があり、家を補強した。今では人魚棟は主にアーティストのアトリエとして利用されているが、土曜日のみ喫茶店&古書店としてオープンしているそうだ。



15「大正メイキン」も築65年の2棟の長屋の1つを全面リノベーションし、アトリエ&住居&店舗として、モノづくりを行っている。若手のアーティストさんが数人で活動し、週末にはイベントやショップを開いているそうだ。また、大正駅から**16「尻無川」**ぞいに西に歩くと、電車と川、奥手に京セラドームが見え、そこに電車が通ると迫力満点な景色が見られる地点(1ページ目タイトルの左写真)がある。そして、もう少し進むと、まるでアメリカに来たかのような気分を味わえる車や船、建物が建ち並んでいる地点がある。ぜひ大正を歩いてみて、レトロなアートを感じてほしい。